

じゃがいも

大西洋沿岸州が大生産地

カナダは小麦、大麦などの穀物あるいは油糧作物の産地として世界的に有名だが、じゃがいも——特に種じゃがいもの大生産地でもある。

とりわけ大西洋側のニュー・ブランズウィック、プリンス・エドワード・アイランド両州では、じゃがいもは最も重要な農産物であり、カナダ全体としても、生産高、生産額のいずれの点でも最も重要な野菜となっている。

ニュー・ブランズウィックには、大規模なじゃがいも加工産業があり、じゃがいもをチップやフレーク、あるいはフレンチ・フライにして冷凍し内外各地に送り出している。

また両州とも気候、土壌が種じゃがいもの栽培に適しているほか、地理的に病虫害を防ぎやすいという条件を備えており、すぐれた種じゃがいもの生産地として世界的に知られている。カナダは種じゃがいもの輸出では世界で二番目に大きい。



カナダ小麦局

平原州の麦取引を管理

カナダ小麦局は、平原諸州でとれる小

麦、大麦、からす麦に関して、国内他地域への販売および海外輸出を独占的に扱う公的機関である。

小麦局は、①最善の価格でできるだけ大量の小麦を売る②農民のために価格の安定をはかる③農民に対して平等の出荷機会を与える——を努力目標にしている。

小麦局はエレベーター（穀物貯蔵庫）の収容余力や輸出动向などを見ながら生産者に出荷割り当てを行い、農家の手取り価格も小麦局の販売価格（主として輸出価格）に準じて小麦

局が決定する。各農家は代金を二回に分けて、すなわち穀物を納入した時点（頭金）と、その年度の小麦会計を締めた時点（最終支払い）で受け取る。

国内消費の食用小麦は、買い入れ、売り返しが二重価格制になっており、農家は一定の価格を保証されているが、それ以外の小麦の価格は、国際市場の動向によって左右される。

キャノーラ

食用油などに最適

カナダが世界の食糧庫として、多くの国に小麦を供給していることは周知の通り。だが、小麦に次ぐカナダ第二

の輸出農産物が食用油や飼料の原料となるキャノーラであり、カナダが世界最大のキャノーラ生産・輸出国であることは意外と知られていない。

キャノーラというのはナタネの改良種で、在来のナタネに含まれていた有害物質エルシン酸とグルコシノレートの含有量を大幅に減らしたものである。他の油糧種子と比べると、これらの物質の含有量がきわめて低いほか、含有タンパク

が良質で、食用油としては風味が安定し、かつ調理に便利、また粕（ミール）は良質の飼料となるなど、すぐれた特性を備えている。栽培費、加工費、流通経費などの面でも利点が多い。

精製したキャノーラ油は、天ぷら油やサラダ油として好まれている（カナダで使われている食用油はキャノーラ油が一番多い）。ショートニングやドレッシング、マヨネーズの原料にもなり、ピーナツバターにも天然の乳化安定剤として利用されている。またキャノーラを搾油す



キャノーラの種子(手前左)、ミール・ペレット(手前中央)、ミール(右)および油(中央)。

キャンファーム

農業経営に各種のサービス

農家に適切な経営情報を提供し、経営指導を行う全国機関が、キャンファーム（カナダ農業経営データシステム）である。これは、各地の大学、州農務省、連邦政府農務省が共同して、全国共通の農業経営方式を開発・普及させようと設立したものである。

一九七九年まではカナダ政府が中心となって運営してきたが、七九年に民間に移され、農業関係団体が共同で管理するようになった。

現在は、農民の具体的な利益につながる各種の事業を実施している。たとえば事業計画に加入登録している農家を対象にコンピュータによる経営分析サービス、あるいは経理記録システムや経営プラン・パッケージを提供するなど、きめ細かいサービスが好評である。

チーズ

世界的に有名なチエダー

カナダは畜産が盛んで、酪農も発達しているから、すぐれたチーズがあっただけでなく、日本でも知っている人は案外少ない。

アカラカルト